

2022年度事業報告書

【本部】

令和4年度もコロナ禍3年目でのスタートとなりました。

こども園として2年目を迎え職員の確保も順調にでき勤務にも余裕のある保育・教育ができました。また、職員の有休消化も順調に出来ております。今年度後半は、コロナ感染報告等が簡素化された一方保護者からの報告が詳細を欠き家族感染の中に園児が感染していないので登園してその後園内で発熱して陽性が確認された例もありました。昨年度から障がい児保育も積極的に受け入れ令和3年に1名でしたが、今年度は、1月現在で6名の軽度障がい児を受け入れております。また、令和4年度も保護者アンケートを実施しております。集計後は、速やかにメールや掲示板に張り出しております。

今後も、子どもへの最善の利益を追求してまいります。また、職員の質の向上に努め、健全児・障がい児の垣根をなくし保育の向上に努めてまいります。

令和4年度は、理事会は、3回開催しております。評議会については、今年度は、1回の開催となりました。

【施設】

年間行事については、別紙添付しておりますが、コロナ禍での行事開催となり地域住民や卒園児の招待を断念しております。わくわく遠足を9月に行い雄大な阿蘇の山々を眺め猿回劇場を見学し、その後、平成28年4月に崩れた阿蘇立野大橋(通称赤橋)を下車して見学し菊陽町の鼻ぐり公園内にある西暦1600年代に加藤清正が職人に作らせた白川から引き込んだ支流を見学し今でも灌漑に利用していることを知ってとても驚いていました。

今年度も、職員代表による保育園の自己点検・自己評価を行うとともに職員満足度調査も行いました。

1. 保育

年間通しての行事には大きな変更等はありませんが、今年度も感染対策を十分に行い健康管理や体力増進を行ってきました。(第二運動場の活用・農園活動等)

家庭との連携強化として、お便り帳や安心安全メールの活用と共に降園時の連絡や報告の充実を行いました。

2. 受け入れ園児について

3月1日付けで、1号園児17名・2号・3号園児で133名となり、園児総数150名となりました。

自主的一時預かりは、今年度はコロナ感染拡大防止のため行っておりません。

2022年度は、はな組(0歳児)の入園希望者が5名と少ない状態でスタートしましたが、毎月入園園児希望者を受け入れ3月には0歳児17名になっております。

3. 給食

開園当初から続けています農園作業も職員も園児も慣れてきて播種から収穫まで楽しみに行っています。野菜は、2月にジャガイモの植え付けを行い6月に収穫します。5月にサツマイモの苗の植え付けを行い10月に収穫します。また9月の第1週に大根の種まきをして11月中旬に収穫しました。今年度は、2歳児以上のクラスでグリーンピース・人参・きゅうり・ほうれん草も栽培し自分たちで育てた野菜なので嫌いな人参も我慢して食べました。今年は、栄養士が3名調理師2名の5人で担当することになり、このうち2名は、子育て支援員の資格も持ち園児たちに寄り添った給食作りができています。また、熊本市の献立表を使用していますが、誕生会の時は創意工夫をして味付けや形にも変化をつけて提供しています。

近年はアトピーやアレルギーの子ども達が増えてきたので、保護者、栄養士、クラス担任、主幹及び副園長を交え話し合いを設け除去食等も積極的に取り組んでいます。

4. 安全管理

登降園時の交通安全、災害訓練（消火・避難）、不審者に対する訓練、散歩先での交通安全を実施しました。特に熊本地震の後、子ども達が過敏になっているので、配慮しながら訓練をおこないました。

5. 保健衛生管理

児童及び職員の健康診断、歯科検診などによる健康管理に配慮し、次亜水の蛇口を給食室・調乳室、木浴室、園庭の足洗い場に設けています。食中毒の予防対策として手洗いやうがいを励行しました。調理においては、食品衛生法に基づく指導基準を守り、食中毒を起こさないよう衛生面に注意しました。特に今年は、コロナ感染予防のため、手洗いやうがい、手指の殺菌などは重点的に実施しました。

6. 地域との交流

託麻東校区内小山3町内子供会や老人会との交流を予定しておりましたが、去年に引き続きコロナ感染拡大防止のため中止しております。

主な交流会

- ・6月 運動会への卒園児招待(小学生)
- ・8月 観劇会(卒園児小1)
- ・10月 秋祭り会(近隣住人・卒園児)
- ・12月 餅つき (老人会)

7. 職員福利厚生

ユニフォームの定期的な貸与及びインフルエンザ予防接種の一部負担(3,000円)、キャリアアップ研修への参加も希望通りに消化しております。

福利厚生制度にも加入し(ふれあい共済)多くの職員が利用をしています。